

地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和4年12月20日)

[件 名]

■ 多様化する県民意見に対応した広聴事業の実施結果について

【県民参画協働課】・・・ 2ページ

地域づくり推進部

多様化する県民意見に対応した広聴事業の実施結果について

令和4年12月20日
県民参画協働課

多様化する県民の意見を県政に反映させるため、若者グループによる広聴活動や幅広い世代で構成する県政モニターによる広聴事業を実施しましたので、その概要を報告します。

1 若者広聴レンジャー事業

公募により決定した「とっとり若者広聴レンジャー」（3グループ、13名）が、地域住民へのヒアリング等を行い、若者目線による事業アイデアの提案を行った。

(1) 取組テーマ及び事業アイデアの概要

グループ名	広聴活動の成果、事業アイデアの概要
空き家レンジャー (高校生3名)	<p>テーマ：空き家をリノベーションして若者を惹きつけよう</p> <p>〔活動の内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に空き家を活用して現場を体験するため、鳥取市の商店街にある「不真面目商店」で写真展のイベントを企画・実施し、来場者へのアンケート調査を行った。 リニューアルされた五臓圓ビルでカフェを経営している(株)nido中村さんにビルの活用に至った経緯、管理上の苦労等についてヒアリングを行った。 <p>〔活動の成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き家には所有者や防犯など種々の問題があり、利用が簡単ではないことがわかった。 鳥取にも空き家を活用した施設が多くあり、情報交換を積極的に行うことで、地域のつながりをつくるのが大切なことがわかった。 <p>〔事業アイデア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 所有する空き家を有効に使ってほしいと思っている人を募り、空き家に興味がある人を対象に、空き家クリーンウィーク（※1）や空き家フィットウィーク（※2）を実施する。 <p>〔※1：空き家を訪問して不用品を宝探しのようにみつけることで空き家への関心を高めてもらう取組 ※2：空き家・空ビルを利用して出店したい人に行政が一定期間お試しで空き家を貸し出す取組〕</p>
A l a m e a (アラメア) (高校生5名)	<p>テーマ：中山間地域の過疎化と町おこし</p> <p>〔活動の内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 「週末だけのまちのみせ」を訪問し、来訪者に鹿野町の良いところ、不便なところについてヒアリングを行った。 NPO法人さじ未来に「小さな拠点」による買物支援等の取組についてヒアリングを行った。 高校生が旅くじ（※3）で訪問した鹿野町の実体験・感想をとりまとめた。 <p>※3：参加者がガチャガチャで旅先を決めるくじ。今回は中山間地域を旅先に設定</p> <p>〔活動の成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐治や鹿野には中山間地域ならではの魅力があり、まちをより良くするための取組も行われており、当初抱いていたイメージ（活性化の取組が不十分）とのギャップに驚いた。 中山間地域の魅力が若い世代に伝わっていないため、若者が実際に訪れ、自分の目で見た情報を発信していくことが大切だと思った。 <p>〔事業アイデア〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 中山間地域を旅先とした「旅くじ」プラン（(例)佐治コース、鹿野コース）を実施することにより、若い世代に地域の魅力を伝えることができ、若い世代と地域住民との交流が生まれる。
鳥取を救い隊 (高校生5名)	<p>テーマ：鳥取を救おう！</p> <p>〔活動の内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生184名にUターンの意向等のアンケート調査や教員にUターンした理由等のインタビューを行った。 実際にIUUターンした地域おこし協力隊の黒崎さん、大山町國吉農園さん、サンドボックス宇佐美さんに、移住にあたり求めたい支援、起業した理由などについてヒアリングを行った。 <p>〔活動の成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域貢献のためUターンしたい生徒が多いが、県内にはUターン者が活躍できる場が少ないため、起業家を増やして働く場などの環境整備を考えていく必要がある。 起業の前にまずアルバイトなどで様々な職種に触れ、多くの経験を積むことにより鳥取について見えてくる可能性があることがわかった。 <p>〔事業アイデア〕</p> <p>○起業家の中には起業支援制度をうまく利用できていない人もいるので、現在県が行っている起業家支援制度を地域の方にも知ってもらう機会を増やす。</p>

(2) 活動概要

- 6月10日 キックオフミーティング ⇒ 広聴活動開始
- 9月16日 中間報告会（県や広聴アドバイザーにより、今後の活動についての助言も行った。）
- 11月22日 活動成果報告会（オンラインで地域づくり推進部長へ提案を行った。）

2 県政モニタリング事業

公募により決定した「県政モニター」（6名）が、県政テーマについて、県民目線・県民感覚による課題整理や改善に向けた提案を行った。

(1) 対象テーマ及び実施体制

テーマ	県内企業における働きやすい職場づくりの取組推進について
コーディネーター	国立大学法人鳥取大学 理事・副学長 細井由彦（ほそい・よしひこ）氏
テーマ関係課	商工労働部雇用人材局とっとり働き方改革支援センター

(2) 活動概要

- 8月～11月 モニター会議での意見交換〔3回実施〕
- 12月15日 県（地域づくり推進部長）への提案書提出

(3) 提案の概要

モニターが整理した課題	課題に対する提案（主なもの）
① 働き方改革に積極的に取り組んでいる企業が増えてきている一方で、関心のない企業も多く、 <u>働き方改革に関心のない企業経営者への働きかけが必要</u> である。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営者が多く集まるイベントなどで、働き方改革に係る助成制度等の紹介コーナーを設置することなどにより、関心がない企業にも情報に触れてもらう機会を増やす。 ・県等のホームページ上で働き方改革を実践し効果を上げた事例を業種ごとに検索できるようにして同じ業種の成功事例に触れられる機会を増やすなど、業種ごとのアプローチを検討する。 ・LINE など日常的に気軽に使えるツールを活用して助成制度を周知したり、労務管理など、よくある質問をFAQとしてホームページに掲載する仕組みを検討する。
② 働きやすい職場づくりのためには、 <u>労働者側の意識を底上げしていくことも必要</u> である。あわせて、社会人になる前の学生に働き方に関する啓発を行うことも重要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足の中でも必要なときに休暇を取得しやすく、誰もが希望に合わせて長く働き続けられるよう、業務を共有化する企業の取組を支援する。 ・風通しの良い職場にしていくために企業が行う社員や職員のコミュニケーション向上につながる研修会などの取組を支援する。 ・これから社会人になる高校生や大学生などに向けて、（一財）県労働者福祉協議会が作成している新社会人向けハンドブック「THE 社会人」を有効活用し、働くときのルールや休暇制度、困ったときの労働相談窓口などを学ぶ機会を作っていく。

3 今後の予定

若者広聴レンジャーや県政モニターからいただいたアイデア・提案は、今後の事業実施や予算要求等への反映を検討していく。